

‘なつひめ’における整枝法の違いが 樹体生育、収量及び果実品質に及ぼす影響

1 情報・成果の概要

(1) 背景・目的

‘なつひめ’は、二十世紀系統に準じた整枝法で栽培されているが、新梢の発生程度や短果枝の維持程度などは‘二十世紀’とはやや異なっている。そこで品種特性に適した整枝法について検討する。

(2) 情報・成果の要約

- 1) 「4本主枝型」は、11年生時点で、1樹当たり185kgの収量が得られ、他の整枝法より早期多収となる。ただし、10年生以降は主枝先端部の新梢の伸びが悪くなり、樹冠面積の増加が緩やかとなり、樹冠面積は25㎡/樹以下である。
- 2) 「多主枝型」は、初期の樹冠拡大は早いですが、主枝上の短果枝の維持が「3本主枝型、4本主枝型」に比べ難しく、初期収量の面でも有利性が認められなかった。従って、間伐樹についても整枝は「4本主枝型」が良い。

2 試験成果の概要

(1) 処理方法

2005年3月に3年生苗を植え付けた‘なつひめ’を用いて、3種類の整枝（3本主枝、4本主枝、多主枝）で管理した（図1）。各整枝法について2008年から2013年（6年から11年生）の6年間、樹体生育、収量、果実品質について調査を行った。

(2) 果実品質

果重、糖度は、「多主枝型」において低い傾向を示した（表1）。

(3) 樹体生育

2013年（11年生）時点における樹冠面積、枝長、枝数、果数、収量は「4本主枝型」が最も多かった（表2）。

(4) 樹冠面積、収量

「3本主枝型」、「4本主枝型」は年々樹冠面積と収量が増加したが、10年目以降、主枝先端部の新梢の伸びが悪くなり、樹冠面積の増加は緩やかになった。「多主枝型」の樹冠面積は、8年目まで増加したが、9年目以降は、15㎡/樹前後で推移し、収量も100kg/樹前後となった（図2）。

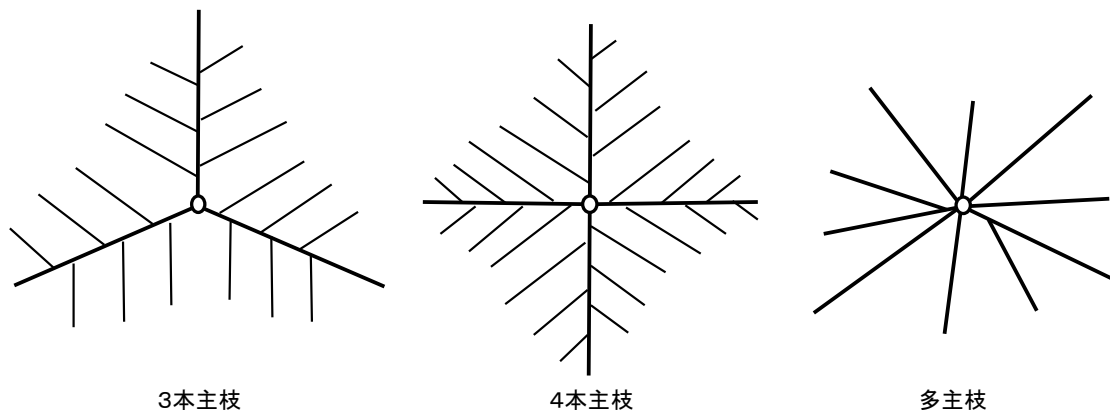


図1 処理区の設定

表1 ‘なつひめ’の整枝法の違いが果重・糖度に及ぼす影響

\ 調査年(樹齢)		2008	2009	2010	2011	2012	2013
項目	処理区	(6年生)	(7年生)	(8年生)	(9年生)	(10年生)	(11年生)
果重 (g)	3本主枝	370	386	392	371	421	460
	4本主枝	364	411	394	378	407	463
	多主枝	359	389	375	336	438	425
糖度 (Brix%)	3本主枝	12.3	11.5	12.9	12.0	11.9	12.1
	4本主枝	12.5	11.5	13.2	12.2	12.0	12.3
	多主枝	12.4	11.4	12.7	11.7	11.7	12.2

表2 ‘なつひめ’の整枝法の違いが収量に及ぼす影響(11年生、2013年)

処理区	幹周 (cm)	樹冠面積 (m ²)	総枝長 (cm/樹)	結果枝数 (本/樹)	果数 (果/樹)	着果密度 (果/m ²)	収量 (kg/樹)
3本主枝	35.4	20.0	4246	27.9	336	16.8	154.6
4本主枝	37.2	23.9	5728	36.8	400	16.8	185.2
多主枝	36.6	16.5	2541	16.4	214	12.9	91.0

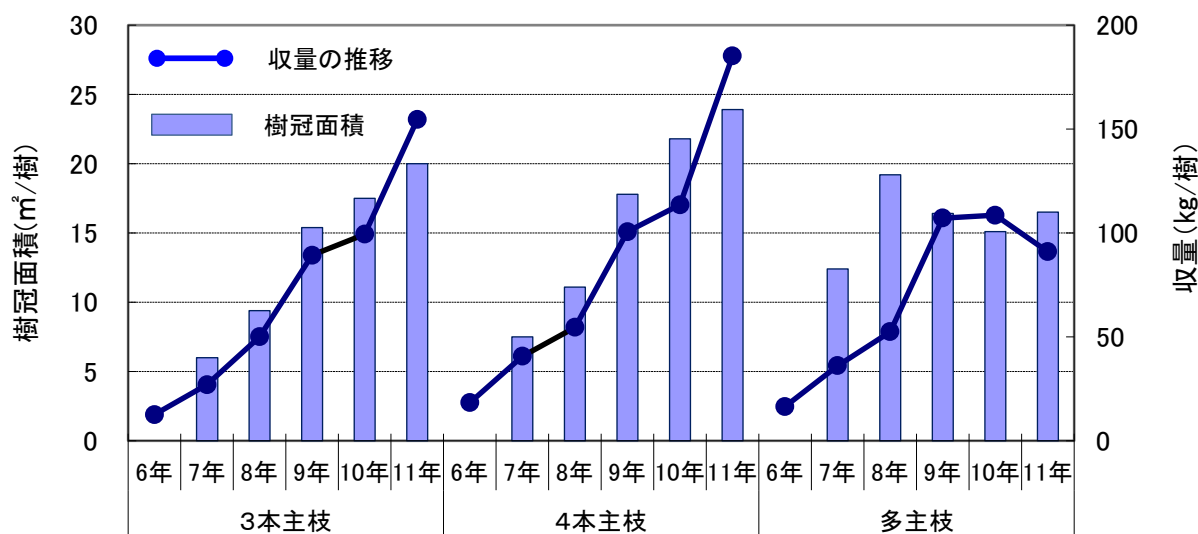


図2 ‘なつひめ’の樹冠面積と収量の年次推移

3 利用上の留意点

本試験は、園芸試験場圃場（黒ボク土壌）における試験結果である。

4 試験担当者

（果樹研究室 主任研究員 杉嶋 至
室 長 池田隆政）